

高校生活は一瞬で終わるから、行事も部活も全力で楽しんでほしい。

語り手 渡邊理音（高校十七期生 産業社会学部）

聞き手 木村果子

初めに

—なんで、リツモリ二十年史に応募してくださったんですか？

高校の時の先生に「渡邊さん、やったら？」みたいな言われて、で、正直これといったちゃんとした理由はないんですけど、先生が私にわざわざ言ってくるのはそれなりの理由があるかなと思って。で、やりやすと言った感じかな。

—どの先生がリツモリ二十年史を紹介してきたんですか？

華山先生。いま、ハズイタウンにいるよな。まだ、見たことないけど。そろそろ先生に会いに行きたいな。

—リツモリ二十年史のことは去年から決まっていたんですか？

うん。去年、学校に行った時に先生が「アカデミア代表でどう？」みたいな言ってきたて、『なんで私？』って聞いたたら、先生が「渡邊さんが一番いいかな」って言うてきて、「じゃあ、やります」ってなった。

*

中高時代

—そうなんです。理音さんは中入生ですか？高入生ですか？

中入生です。

—なんで中学からリツモリにこようと思ったんですか？

理由は不純なんやけど、地元の学校があんまり好きじゃなくて。理由

は荒れてるからなんやけど、で、中学受験したくて、兄弟社カリツモリやったんですけど、どっちもオープンキャンパスに行つて、まあリツモリの方がいいなと思って、で、リツモリは大学まであるやん。だから、リツモリにしたのと、あと、オープンキャンパスの時の先輩と先生の対応が良くて、リツモリ行きたいなと思って、リツモリにした。

—中学校時代で一番思い出に残っていることはなんですか？

合唱コン。で、中二はコロナでなくなつてん。中三は合唱コンあつて、クラスで自分が伴奏して放課後も凝つて練習して、楽しかった。

—なんの曲歌ったんですか？

なんやったつけ。聞こえるみたいな（笑）。多分な。あんまり覚えてなくて。伴奏は初めあんまりやるつもりがなくて、でも、中三の担任が、中一の担任と一緒にやつて、で中一でも伴奏したんよ。でも、中一の伴奏でもう疲れたから、やめとこうと思ったんですけど、担任に「やったら？」って言われて、「じゃあ、やります。」って言うて、やりました。

—中学校に通っているときに、リツモリにきてよかったなと思うことはありましたか？

学校が綺麗なのと、不安やったけど、友達もたくさんできたし、楽しいし、学年主任がいい人やつて、で、学年団の先生も明るい人たちばかりで、すごい良かった。言ってしまうえば環境が整ってるやん。ま、私立やし。購買とかもあるし。掃除してくれる人もいるし（笑）。そこも良かった。他の中学と英語の授業が全然違うらしくて、一回他の中学の先生がリツモリの英語の授業を見にくるみたいなのがあったんよ。で、私のお母さん、学校の先生で、その授業見きたんよ。そしたらお母さんが、「全然違うな。」って言うて、授業の質がとていいんだなと

思いました（笑）。

*

―設備とても整ってますもんね。高校で一番思い出に残っていることはなんですか？

文化祭ですね。高三の劇。リメンバー・ミーをしました。

―それ、見ました。

私はそんなメインのキャラをやったわけではないけど、夏休みも集まって、練習して、準備して、リハーサルとかも楽しかったし、本番も楽しいし。私にとって最高の思い出になったなと思います。

*

―海外研修はどこに行かれたんですか？

カナダ。めっちゃ良かった。ホームステイ先が当たりやった。ホームステイの時一人がいいか、二人でもいいかの希望が取られたんよ。私は、友達がいताほうが楽しいかなって思って、二人でもいいに回答したんよ。そしたら、友達と同じになって、その時点で楽しくて当たり前やし、二人迎え入れてくれる家はだいぶ裕福やから、いい家やった（笑）。やけど、ホテルのところも楽しそうやった。友達と泊まれるとか絶対楽しいと思う。多分どこ行っても楽しいけど（笑）。海外研修なんてどこいっても楽しいし、思い出になるから楽しんできてね。

*

―高校の時に一番苦労したことはなんですか？

探究かな？高二でまず、グループでやるやん。高三の時は高二的の探究があったから、やりやすかったけど、一から自分で考えてつてなると難しかった。

―なんのテーマについてやったんですか？

児童虐待をテーマにしました。まず、自分が関心あることを探し

て、そこから社会問題に繋げるみたいな感じやったんやんか。で、関心あるのをまず子供にして、将来小学校教師になりたいと思ってるからさ。そこから、社会問題となったら、いろいろあるけど、あんまり、みんながやってないことしたいと思っけん。みんな子ども食堂とか多くて、子ども食堂にしたら被るから、違う方向にしようと思っけん、虐待を選んだ。

―探究活動をする上でなにかアドバイスありませんか？ちなみにテーマは食品系です。

食品系の人はみんな企業の人と協力したりしてるかな。あとは、作ったものを購買で売ってもらったりするか、それぐらいしかないかな。自分が興味を持って取り組めたら、探究活動ってとても面白くなると思うから自分がしたいことをどんどんするべきやと思う。難しくて困ったら、グループの子とか先生に聞くのもいいと思う。探究はなかなか貴重な時間やからこそ楽しんでほしいし、大事にもしてほしい。大学入ってからもやってて、良かったと思えるし。

―高校時代に一番お世話になった先生は誰ですか？

高校か。思いつかん（笑）。

―ちなみに担任の先生は誰だったんですか？

ユニット制みたいなのやつで、吉田先生と華山先生やったかな。いろいろいたからあんまり詳しく覚えてないな（笑）。

―高校生活の時に一番頑張ったことはなんですか？

探究かな。探究ってアクションやらなあかんやんか。それで、小学校いって朝の会の時間に、小学校三年生のクラスに行っけん、プレゼンしたんよ。その前に校長先生にこの内容でプレゼンしていいか聞いたんよ。

そしたら、虐待って言葉をダイレクトに出さんといってた言われたんですよ。実際に虐待を受けている子がいるかもしれないから、ダイレクトに言わずに包んで言うことにしたんですよ。だから虐待がどうのこうのっていうより、嫌なことをされたら「助けて」って言っていいたいんだっていう感じのプレゼンをしたんですよ。もともとその学年に虐待を受けている事実がある子がいたんですよ。

そしたら私のプレゼンを聞いた二日後か三日後ぐらいに、先生に相談しに行った子がいたらしくて、また新しく虐待されている子が見つかったらしい。お母さんが働いている小学校に行ってるんですよ。だから見つかったことが分かったんですよ。それで、お母さんにめっちゃ褒められたんですよ。褒められたことも嬉しかったけど、一人の子が声を上げてくれて、助けになった気がして嬉しかった。このテーマでやって、良かったなあって思った。

—すごいですね。私も探究頑張らないと（笑）。

全然やで（笑）。三年では何したいとか決めてるん？

—何も決めてないんですよ。二年生はまだグループやからやりやすいけど、三年生になったら、一人でしなあかんから不安です。

逆に私は三年生の時の、一人で探究する方が楽やった。高二の最初も探究のテーマ子供にしてたから、虐待か育児放棄系で行こうと思ってたけど、グループやったら、虐待選んでる人とかおらんかったわけやからさ、子育てとか育児とかの方面のグループに入ったんですよ。あんまり興味なかったから、面白くなかった。それに関しては一人でやる方が好きなことできるし、楽やった。グループってみんなちよつとずつ違うから、誰かがあわせやなあかんわけやんか。

—探究って難しいですね。

今、大学で自分の興味あることを調べて、レポートを書きましようみたいな授業が三つあってんか。それ全部虐待関連にした（笑）。これに関しては、外部の子は高校生の時に探究とかないわけやん。だから、外部の子みんなはほんまにどうしようとか言ってたんですよ。けど、私らはやってたわけやん。だからほんまにやりやすい。もう書き始めたら止まらない（笑）。

*

—ちなみになんですけど、部活でキャプテンでしたよね。それってどうやって決まったんですか？

それは、先輩から言われて。中学の時も、部長をやってた、中学の時も先輩に言われてやって、高校も同じ感じで言われて、やった。その時に、「副部长は決めていいよ。」って言われて、副部长を勝手に決めた。部活は経験者と初心者とで分かれるやんか。私は一応経験者の方にいたし、声もでかい方やし、仕切れる方やし、「やります。」って言うてやった（笑）。

—部活でキャプテンやって、良かったなって思った時はいつですか？試合で勝った時とか、仲間とか先生から「ありがとう。」って言われた時かな。あと、自分の声掛けでチームがまとまったって思う時。今思えば部活楽しかったな。後輩とは仲良かったし。みんないい子やったし。

—キャプテンやって、大変と感じた時はいつですか？

バドミントン部は人数多いやん。だからそれをまとめるのが大変やった。あと、人数多い割にコート数少ないし、メニューも組めへんかったな。

—部活嫌になったこととかないんですか？

全然あるよ。一時期嫌すぎて休んでた（笑）。揉めたりしてめんどくさかった。外練習とかめんどくさいやん（笑）。

私らの代が海外研修行ってる時って一個下の子達が仕切ってるやん。それで海外研修から帰ってきたら、みんなやる気に満ち溢れてて、いいことなんやけど、なんかやりづらかったな。私らの代は打てたらしいかなーぐらいの熱量やってん。その熱量の差が嫌やったな。

たまに男女でコート分けるやん。私それも嫌やってん。自分勝手なこともかもしれけど、私経験者やんか。だから、女子同士で打っててもあんまり本気で打てなかったんやんか。だから、男子と打った方が楽しいって思うこともあった。私の一個上の代は男女で分けたい派やってんか。でも私は分けたくない派やったんよ。分けるなら、レベルで分けたっかってん。でも男女で分けるから、それならもともと男女別の部活にしたらいやんとも思ったことある（笑）。せっかく男女合同の部活なら男女でやろうって感じ。

*

ー高校三年間で自分が一番成長したと感ずるところはどこですか？

成長したところは、人前で話す力。リツモリって人の前で話す機会多いやん。プレゼンする時とか、探究の発表とかさ。それも高三やったら探究のこと一人で発表するからさ。私、もともと人前で話すこと無理やってんか（笑）。幼稚園の発表会の時とかも、みんな一人で立ってんのに、私だけ後ろにお母さんいたりしてんか（笑）。それぐらい、無理やったのに、なんか人前で喋れるようになりました。多分それは何回も人前で話すことを経験したからです。

*

現在

ーなんで今の学部を選んだんですか？

今の学部を選んだ理由は、小学校の免許が取れるのが、この学部しかなかったから。産業社会学部の中でも、現社（現代社会専攻）などは授業の取り方によって中学校、高校の教員免許が取れるけど、こども社会（専攻）は最初からカリキュラムの中に小学校教諭の免許を取るための授業が組み込まれている。だからこども社会に進めば、小学校教諭の免許が取れるようになってるねん。他で小学校教諭の免許を取れる課程がないから、だからそこしかないなと思って、こども社会にしました。

ー他の学部とかは迷わなかったんですか？

迷わなかった。小学校の教師になることが夢やからかな。

ー将来の夢が決まってるのすごいですね。

お母さんが小学校教諭やからかなと思うけど。ほんまになんでこんなに小学校教諭を目指してるんかわからへん（笑）。

ー中学校の先生とか、高校の先生とかは将来の夢として、視野には入れていないんですか？

入れてないかな。多分やけど、私は一つのことだけをやる事が嫌いやからやと思う。中学校と高校やったら、なんの教科の先生かも決まるやん。自分はいろんなことをしたいんやと思う。あと、ちっちゃい子が好きやからかな。じゃあ幼稚園行けよってなるけど（笑）。なんでほんまに小学校に集中してるんやろ（笑）？

ー得意教科はなんだったんですか？

数学や理科とかの理系科目が苦手やったから、文系を選んだんやけど。やからと言って、古典とかできるわけでもないし。ただただ数学だけが得意やった。

*

―高校と大学で大きく違う点はどこですか？

授業を全部自分でとらなあかんから、なんかその、応募期間があつて、募集人数が決まってるって、人数がオーバーしたら抽選みたいな。らくたんとか、楽に取れる単位とかいろいろあるけど、そういうのが人気なんよ。小学校教諭の免許取るってなったら、スポーツ系の単位を二つとらなあかんみたいなんがあつて、その枠がめっちゃ少ないねんか。三十人とか。やけど、その三十人って、四学年全員から三十人やねんか。やから、ほんまに少なくて、で、抽選に応募できる数みたいなんも決まってる、ほんでスポーツを抽選に応募したんやけど、一個落ちちゃつて。また次それとらなあかんから、それを考えるのが難しい。何をどのコマで取るのかみたいなんが難しい。

―大学生活で今一番楽しんでいることはなんですか？

楽しんでいることは、友達が増えたこと。英語と第二言語の授業があつて、そのクラスの雰囲気良くて、みんな仲良くなっているのがとても楽しい。あと、こども社会は五十人くらいで小規模だから、そこで友達作るしかなくて自然と仲良くなれたのが嬉しい。現社とかは内部同士で固まりがちなんやけど、こども社会はリツモリ出身が私ともう一人の女の子しかおらんから、内部で固まる雰囲気なくて、外部の子と仲良くできて嬉しい。

―今一番頑張っていることはなんですか？

大学の単位を取得することです（笑）。結構ギリギリを攻めてて（笑）。出席日数とか。大学が衣笠で大学までが遠いから。二時間は絶対かかるから、すごく不便。

―どこでバイトしてるんですか？

バイトは、飲食系と塾の掛け持ち。塾は元々通っていたところで、辞

める時に塾で働きたいですかのアンケートで、考えているって答えたから、電話かかってきて、バイトすることになった。その塾は中学三年生ぐらいの頃から、高校三年生の学部決まるまで行つてた。

*

―これから挑戦してみたいことは何ですか？

挑戦したいことっていうか、挑戦していることは免許の取得を頑張ってる。田舎やから、免許取ったら、楽やん。今は全部親の送り迎えやから、大学とかバイトとかも。だから、早く免許取りたいな。あとは、将来の夢を叶えるために大学がんばってるかな。

やっぱ、探究の授業で自分のしたいことをして、将来に繋げていくことができているから、高校に感謝してる。だから、果子ちゃんもちょっとでも興味のあることを見つけていって、行動していったらいいと思う。早めに行動した方が絶対いいし。

でも大学で違うことに興味を持ったら、それはそれでそっちの新しく興味持った道に進めばいいし。いろいろなことできるのは学生のうちだけやし、特に立守はしたいことが比較的できやすい学校やと思うから、どんどん色々なことに挑戦していってほしい。

挑戦して、うまくいかんこともあるかもしれないけど、それはいつか絶対自分のためになることやし。

あとは、高校生活は一瞬で終わるから、行事も部活も全力で楽しんでほしい。部活とか引退したら、悲しくなるもんやし。めんどくさくなくても、がんばっていつてね（笑）。また、私文化祭見に行くから、その時見かけたら、声かけてね。今日はありがとう。

―こちらこそありがとうございました。

【感想】

高校での学びは全て大学やこれから将来につながっていくと感じた。特に探究活動の話が出てきて、私自身探究活動で迷っていることがあったため、色々知ることができて良かった。また、高校生活はすぐに終わると気付いたため、行事や遊びだけでなく、部活動や授業ひとつひとつも大切にしていき、卒業の時に後悔しないような高校生活を送ろうと思えました。



右..語り手 渡邊理音さん
左..聞き手 木村果子